

## 東京都写真美術館(1)

事業名	会期	概要
記憶:リメンブランス	2024年3月1日 ～6月9日	写真・映像は、人々のどのような「記憶」を捉えようとしてきたのでしょうか。国内外の現代作家による写真・映像の意味を問い直す作品をとおして、ヒトの記憶のシステムにも視点を向けながら、「パーソナルな記憶」と時代に刻まれた「パブリックなイメージ」の両面について考える展覧会です。 出品作家:篠山紀信、米田知子、グエン・チン・ティ、小田原のどか、村山悟郎、マルヤ・ピリラ、Satoko Sai+Tomoko Kurahara
TOPコレクション 時間旅行	2024年4月4日 ～7月7日	東京都写真美術館コレクションをめぐる時間の旅がテーマです。詩人・童話作家の宮沢賢治が1924(大正13)年に刊行した『心象スケッチ 春と修羅』序文の言葉を手がかりに、過去と現在が出会い、「ここ」と「どこか」が重なりあう写真・映像の旅をお届けします。「百年前=1924年」「20世紀の旅」「かつて、ここで」「時空の旅」といったセクションに分けて、37,000点以上におよぶ当館のコレクションを中心に、選りすぐりの名品を紹介します。
今森光彦 里山をめぐる旅	2024年6月20日 ～9月29日	人と自然との関わりを、美しい映像と親しみやすい文章で伝えつづける自然写真家・今森光彦(1954-)の個展。今森は、人間を含む生態系をまるごと「里山」として捉え、多様性にあふれる里山の概念をすぐれた映像により可視化し、その重要性を世界に向けて発信してきました。人間と自然が共生する奇蹟の空間を鮮やかに浮かびあがらせ、我が国の自然の豊かさについて多くの人々に新たな発見を促す、「里山」をめぐる数々の旅。皆様と一緒にその魅力に迫ります。
TOPコレクション 見るということ	2024年7月18日 ～10月6日	写真の発明以前から、視覚に関する研究は数多くなされてきました。私たちが普段当たり前のように行っている「見る」という行為は、歴史的にどのように変化してきたのでしょうか。本展では、イメージであふれている現代の視覚情報の多様化に焦点を当てると共に、「見る」ことの歴史・経験の豊かさを感じさせる当館所蔵の国内外の名品をとおし、私たちの日常生活における「見る」という行為を捉えなおしてみます。
映像展 映像のはじまり、はじまり	2024年7月27日 ～11月3日	日本を代表するメディアアーティストであり、東京都写真美術館の収蔵作家でもある岩井俊雄(1962-)の作品を中心とし、当館所蔵の映像資料作品を活用して、映像の歴史や仕組みを分かりやすく紹介します。当館のコレクションのひとつでもある「初期映像装置」が、どのように現在のメディアアートに影響を与え、発展してきたかをたどります。
アレック・ソス	2024年10月10日 ～2025年1月19日	国際的な写真家集団・マグナムの正会員であり、生まれ育ったアメリカ中西部を題材とした作品で、世界的に高い評価を受ける写真家、アレック・ソス(1969-、アメリカ・ミネソタ州生まれ)の個展。展覧会・写真集共に多くの支持を得る作家の近作《I Know How Furiously Your Heart is Beating》を中心に、当館独自の企画により会場を構成し、「写真で物語を紡ぎ出す」ような表現の魅力をお伝えします。

※この内容は2024年1月30日現在のものです。事業内容は変更する場合がございます。

詳細は東京都写真美術館広報担当までお問い合わせください。

※太枠は本プレスリリースの表紙に掲載している事業です。

### <お問い合わせ先>

#### 東京都写真美術館

〒153-0062 目黒区三田1-13-3

電話 03-3280-0099 <https://www.topmuseum.jp>

【開館時間】10時～18時(木曜日・金曜日は20時まで)

【休館日】月曜日(祝日・振替休日の場合は開館、翌平日休館)、年末年始、臨時休館日

※最新情報は、公式ウェブサイトでご確認ください。

## 東京都写真美術館(2)

事業名	会期	概要
日本の新進作家 vol.21	2024年10月17日 ～2025年1月19日	写真・映像の可能性に挑戦する創造的精神を支援し、将来性のある作家を発掘すると共に、新たな創造活動を紹介するグループ展。写真や映像を柔らかな視点で捉え、多様な手法、題材により制作する作家たちの作品を、現代写真・映像の曖昧な輪郭にさまざまな角度から光を当てて紹介します。これからの写真・映像ではどのようなことができ得るのかを考える展覧会です。
恵比寿映像祭2025	2025年1月31日 ～2月16日 (3階展示室のみ 3月23日まで)	映像分野における創造活動の活性化と、優れた映像表現を過去から現在、そして未来へと継承し、事業を通じてさまざまなジャンルとの対話を促す映像とアートの国際フェスティバル。国内外の美術館、関係機関、近隣との連携を深めながら、映像文化の拠点として多彩な事業を推進し、恵比寿・東京都写真美術館と周辺地域から発信します。将来性が高く、優れた日本の映像作家へ制作委嘱した作品を展示・上映、收藏し、国内のみならず国外へも発信していく事業など、国際発信力の高い事業を展開します。
鷹野隆大	2025年2月27日 ～6月8日	当館の第三期重点収集作家である、鷹野隆大(1963-)の個展。鷹野は、ジェンダーをテーマとする作品と並行して「毎日写真」や「カスババ」といった日常のスナップショットも手がけるほか、東日本大震災以降、自身の大きな心境の変化から「光と影」といったテーマにも取り組み始めました。急速な時代の変化にともない、新たな表現を模索し続ける作家の最新作を含め、多様な側面に焦点を当てると同時に、2000年以降の日本の写真の動向と今後に迫ります。

※この内容は2024年1月30日現在のものです。事業内容は変更する場合がございます。  
詳細は東京都写真美術館広報担当までお問い合わせください。

### <お問い合わせ先>

#### 東京都写真美術館

〒153-0062 目黒区三田1-13-3

電話 03-3280-0099 <https://www.topmuseum.jp>

【開館時間】10時～18時(木曜日・金曜日は20時まで)

【休館日】月曜日(祝日・振替休日の場合は開館、翌平日休館)、年末年始、臨時休館日

※最新情報は、公式ウェブサイトでご確認ください。